

平成23年度大阪府学力・学習状況調査が6月14日に実施され、大東市における全市立小・中学校におきましても、小学校6年と中学校3年を対象に実施しました。

調査内容は、国語と算数・数学の知識に関するA問題と活用に関するB問題、中学校はさらに英語による「学力調査」、児童生徒に学校生活や家庭生活の様子を尋ねた「児童生徒アンケート」、各学校に取り組み状況や教員の意識について尋ねた「学校アンケート」からなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童生徒の「学習意欲の向上・基本的な生活習慣の定着」に役立てたいと考えています。

☎教育政策室 ☎870・9643

小学校 学力調査の結果より

中学校 学力調査の結果より

すべての領域について、大阪府と同様の傾向にはあるものの、大阪府の平均正答率を下回っています。

国語Bについては、「自分の考えをまとめた上で効果的に説明する記述式の問題」の正答率が低く、「記述する力」に課題があります。

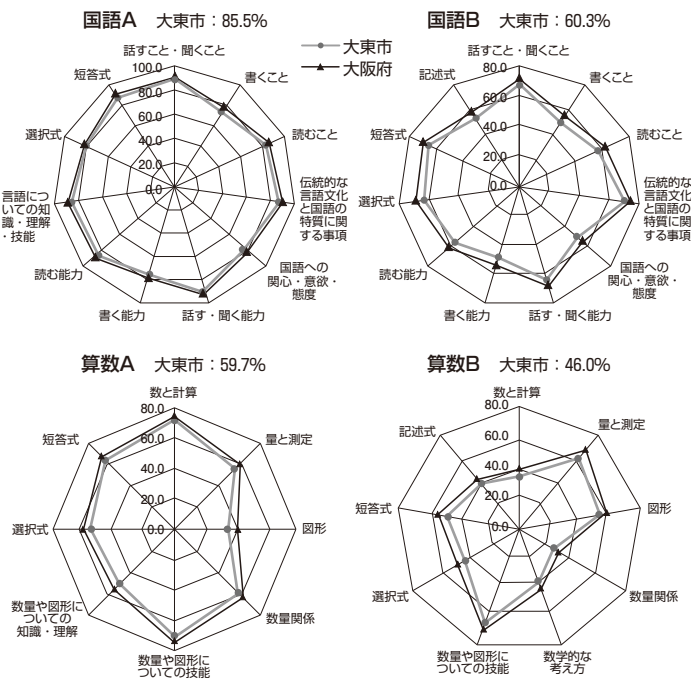
算数Bについては、表やグラフなどで表現された問題を読み、そこから分かることを書いたり、理由を説明したりする力に課題が見られます。

すべての領域について、大阪府と同様の傾向にはあるものの、大阪府の平均正答率を下回っています。

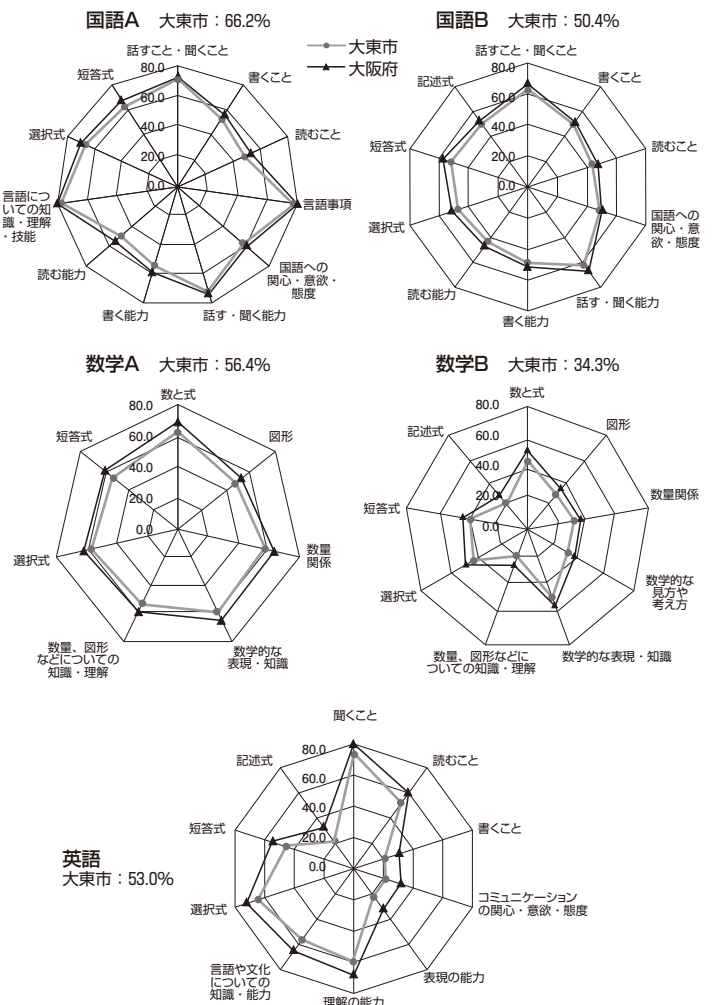
数学Bにおいて、文や図などで表現された問題を読み、読み手の考えを書いたり、理由を説明したりする力に課題が見られます。

英語については、自分の考えを学習した英語で伝える力や記述の力に大きな課題が見られます。

〈平均正答率〉



〈平均正答率〉



※大阪府のデータは、小学校・中学校とも公立学校の平均です

学習状況調査から

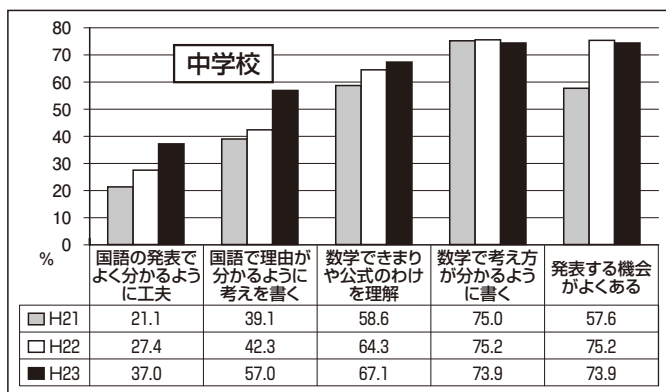
大東市教育委員会では、各学校において「授業改善」（「学び合う授業づくり」）に重点を置いて取り組み、「先生が一問一答で進める一方通行の授業」から「子ども同士による交流のある授業」をめざしています。

下のグラフは、平成20年から平成22年までは「全国学習状況調査」の数値を、平成23年度については「大阪府学習調査」の数値をもとに作成しています。

「学び合う授業づくり」の成果

平成21年度から取り組んできた「学び合う授業づくり」を通じ、小・中学校ともに授業改善が進んできています。

〈中学校：「授業改善」関連アンケートの経年比較〉

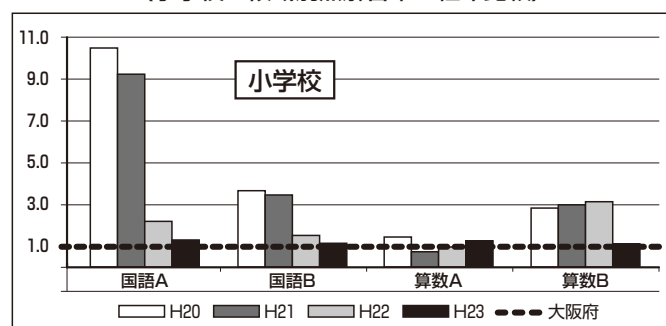


上のグラフは、中学校における「授業改善」関連アンケートの経年比較ですが、取り組みが始まった平成21年度と比較してみると、「国語の授業で意見などを発表するとき、よく分かるように工夫している」「国語の授業で自分の考えを書くと、理由が分かるように気を付けている」「数学の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解する」など、子どもたちは学力調査において課題となっている「自分の考えをまとめた上で効果的に説明する力」につながる分野を意識して学習するさまざまな努力を行っています。

また、右上のグラフは、小学校における学力調査における領域別無解答率に関して大阪府を「1」として経年比較したのですが、小集団で協力して互いに高め合う

態度を育成することで、学ぶ意欲が向上しつつあることが分かります。

〈小学校：領域別無解答率の経年比較〉

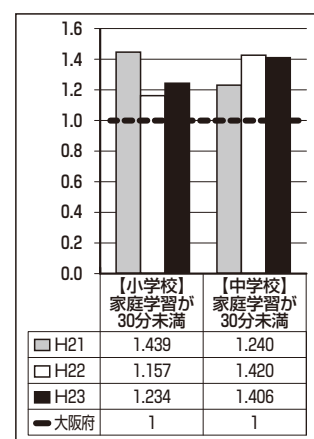


学力向上への「課題」

右のグラフは、授業以外での「学習時間が30分未満」と答えた児童・生徒の数値を大阪府を「1」として経年比較したのですが、小・中学校ともに大阪府の数値を大きく上回り、大きな課題となっています。

大東市では、学力の定着を図るために、「大東・まなび舎」（放課後および土曜日の自学自習教室）などの補充学習を含めた取り組みを、今後も継続していきます。

〈学習時間が30分未満経年比較〉



「学び合う授業づくり」教員研修

「学び合う授業づくり」による授業改善の研修を教職員が一体となって行っています。

どのようにすれば子どもたちが積極的に「話し合い」「効果的に発表を行い」「協力しながらお互いを高め合う」ことができるのかを追究するために、「教師自身が子どもの立場になって」体験する内容を取り入れています。

子どもたちの思考力がより高められるように、努力を積み重ねていきます。

